

カタリナ

学報

第38号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2017. 6. 1



聖カタリナ大学第30回

聖カタリナ大学短期大学部第52回 入学式式辞

学長 ホビノ・サンミゲル



本日、この美しい春の日に、新入生の皆さんを迎えることができたことに対して、心から大きな喜びを申し上げたいと思います。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、台湾と韓国の姉妹校とベトナムから入学した留学生を、皆さんと共に歓迎したいです。

そして、高松教区、使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様をはじめ、ご来賓の皆様へ、ご多忙にかかわらずこの喜びの日にご列席くださいましたことを、心より御礼申し上げます。

また、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。今日の日を迎えることができたのは、皆様がこの若者に対して常に支えと励ましを与えたからだと思います。皆様にお喜び申し上げると共に、心より感謝したいと思います。

さて、新入生の皆さん、今日から人生の新しいステップに踏み出そうとしています。皆さんは社会に出る準備として、本学で高等教育を受けることを決めました。与えられた時間を大切に、勉学に励んでください。本学の学びは、長い人生を歩むための道しるべになると思います。

今年度は、本学では喜ばしい記念すべきことがあります。短期大学部は創立50周年、そして、学部は創立30周年記念を祝うことになっています。この50年と30年の間に優れた学生と教職員が、経験を積み重ね、輝かしい成果を上げて、素晴らしい伝統をつくりあげて来たのです。そして今までおよそ1万8千の卒業生は社会の中で大きな貢献をし、建学の精神

である「愛と真理」に基づいて生活を送っています。一人ひとりが本学歴史の一ページに刻まれ、次の世代にその精神を受け継いだのです。彼らがわたしたちに残してくれた貴重な財産は、これからも大切にしていきたいと思います。

また、今年度は記念すべき出来事があります。それは、この4月から看護学科の開学と北条キャンパス以外に、松山市駅キャンパスを設置したことあります。そして、本学は松山赤十字病院と協力協定を通じて結び合い、連携することによって、この4月から看護学科をスタートすることになりました。今日、看護師を目指して入学したこの優秀な学生は第1期生として本学の伝統を受け継いで、高い学問と技術を習得しながら患者たちと接するためにやさしい心を結成して欲しいです。そして既存学科と連携しながら豊かな学生生活を送っていただきたいのです。

皆さん、本学はまだまだ若いですが、その歴史的なルーツを見れば長く豊かな伝統の上に据えています。カトリック大学としてキリスト教のヒューマニズムに基づいて全人、すなわち、人間の精神的と物質的な面とのバランスを取りながら、教育を与えています。また、本学は聖ドミニコ修道会に属しています。聖ドミニコ修道会は去年創立800周年を祝いました。

聖ドミニコ修道会は13世紀の始めに南フランスで設立されました。創立者ドミニコは、スペインのパレンシア大学教授として多くの人材を育て、多く

の弟子たちが当時、ヨーロッパ中の大学で中心的な役割を果たしました。彼らは800年の間に神学、哲学、科学と文化の面で多くの聖人や世界的な学者、社会のリーダーを輩出して来ました。中でも、歴史上最高の神学者と称される、聖トマス・アクィナス。また歴史上もっとも大きな働きをした女性で、本学の保護者でもあるシエナの聖カタリナは特筆すべき存在です。

私たちはその偉大な先人に倣って、学問の伝統を守っていかねばなりません。

皆さん、豊かな人間性を形成するように努力してください。高い目標に向けて、一人ひとりが、人生の基礎を築いていただきたいのです。そして、その目標を実現するために本学の建学の精神である「愛と真理」の価値を身に付けてください。愛と真理は永久に続く価値です。愛と真理は800年の間に聖ドミニコ修道会を支えてきました。愛と真理は本学の魂なのです。

先ほど朗読された聖書の一節で、ソロモン王は知恵について語っています。彼は、人生にとって知恵が貴重な宝であると教えています。そして、知恵は

富、健康、美しさ、光などよりも勝っていると言っています。

ソロモン王がいう知恵とは、人びとに奉仕し、寛大な心をもつものは、知恵ある者であり、また、知恵者は真の真理を探し求めます。そして真実に基づいて生きています。まことの真理とは、人びとの救いと幸福にさせるために使われる知恵のことです。

皆さん、本学の保護者である聖女カタリナに倣っていただきたいと思います。聖女カタリナは神と人々を愛する心を持ち、真理を追究した偉大な女性です。彼女は愛と真実に基づいて生き、神と人々を愛し、最も貧しい人に奉仕しながらいのちを捧げました。

皆さん本学のキャンパスはFamiliaの雰囲気を持っています。Familia、スペイン語で「家族」という意味です。皆さんが今日から、この家族的な雰囲気の中で友情を育て、学問を習得して、素晴らしい人格をつくり、楽しい学生生活を送ることを期待しています。今から始まる大学生活における、皆さんの健康と幸せをお祈りして、わたくしの挨拶といたします。

◆◆ St. Catherine News ◆◆

●愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学「風早の塾」最終講義

1月27日(金)に愛媛銀行寄付講座「風早の塾」の最終講義が行われ、平成28年度の寄付講座の全日程を終了いたしました。

最終講義は本学健康スポーツ学科長 寺尾寿芳 教授が行い、講座の最後にホビノ・サンミゲル学長より挨拶がありました。

平成29年度も昨年度の実施内容とは異なる内容で、引き続き寄付講座を開催する予定です。

寄付講座は学生に加えて一般市民の皆様も聴講できますので是非ご来場ください。

多くの方々のご来場をお待ちしております。



●北条地区まちづくり協議会との懇親会を開催

2月4日(土)、北条地区まちづくり協議会の方々をお招きして、本学の学生食堂で懇親会を開催しました。

本学からは、留学生と教職員が参加し、日頃から留学生との交流を目的としたイベントで地域の方々と食事やゲームを通して親睦を深めました。



●保育学科1年生が「青空の下みんなであそぼう」に協力

2月11日(土)、「青空の下みんなであそぼう(主催:松山市社会福祉事業団)」が本学体育館で開催されました。

保育学科1年生が「レクリエーション指導実習」の授業の一環として参加し、様々なイベント(イベント名:ちびっこパーク、のびのび体操広場)の運営を行い、約200名の親子に楽しい時間を過ごしていただきました。

当日は、レクリエーションの授業で学んだ内容を活かすことができ、学生にとってもレクリエーション・インストラクターの役割を学ぶ良い機会となりました。



●平成28年度 人間社会学科 卒業研究論文報告会を開催

2月13日(月)に平成28年度 人間社会学科 卒業研究論文報告会が開催されました。

当日は、2つの教室に分かれて口頭発表(社会学系)とポスター発表(心理学系)が行われ、それぞれの発表では活発な質疑応答がなされました。

人間社会学科4年生にとっては、大学4年間の学習の集大成としての研究成果を発表する大切な機会となりました。



●学長と学生との懇談会を開催

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部では、2月14日(火)に平成28年度「学長と学生の懇談会(第16回)」を開催しました。

懇談会では、大学関係者として学長、副学長、人間健康福祉学部長、保育学科長、学生部長(大学・短大)が出席し、学生と軽食をとりながら、リラックスした雰囲気の中で率直な意見交換を行いました。

この懇談会は、学生の声を直接聞くことによって、今後の教育改革や学生支援、さらには大学運営に役立てることを目的として毎年開催しています。

学生は学習環境や授業内容に関することなど、学生生活の中で、学生が感じていることや要望等を、大学に直接伝えることができる有意義な機会となりました。

なお、学生から寄せられた意見・要望等については、今後学内で検討し、授業や施設・設備の改善等に反映していくことにしています。



●聖カタリナ学園セミナーハウスでボランティアセンターの合宿を実施

2月18日(土)・19日(日)、聖カタリナ学園セミナーハウス(松山市河野別府)で学生ボランティアセンターの合宿を実施しました。

当日は、地元北条「地域まちづくり応援隊」の結成のため北条地区まちづくり協議会の方、松山市役所「坂の上の雲まちづくりチーム」の方も加わり、今後のプロジェクトについて話し合いました。

その後、平成29年度のボラセンのあり方やボランティアウィーク、さらにプロジェクトを練り、いろいろな仕掛けのある1泊2日の合宿となりました。



●保育学科「初心者のためピアノ教室」を開講

3月9日(木)に保育学科の入学前教育として「初心者のためのピアノ教室」を開講しました。

この講座は、AO入試・推薦入試の合格者のうち、ピアノ初心者を対象に、入学までに少しでもピアノに慣れ、入学後の学びに結びつけることを目的に行っているものです。

当日は、保育におけるピアノの重要性や役割について実演を交えて学ぶ講義や、音楽の専門教員による個人レッスンが行われました。サポートスタッフとして参加した在学生との懇談の時間も設け、和やかな雰囲気のまま終了しました。



●学内合同企業説明会を開催

3月24日(金)に大学3年生と短大1年生を対象にした、平成28年度学内合同企業説明会を開催しました。

愛媛県内に拠点をもつ様々な業種の企業の方々に、事業内容や仕事のやりがいなどについて説明していただきました。学生達は、夢や目標を実現させる就職先を見つけるために、各企業のブースに立ち寄り真剣な態度で説明を聞いていました。

●松山市駅キャンパス 看護学科新校舎の竣工式について

平成29年4月より看護学科(定員80名)を開設するに伴い、伊予鉄「松山市駅」南側に「松山市駅キャンパス」を新設いたしました。

その記念事業として、4月2日(日)に新校舎の竣工式を執り行いました。

当日は、多数のご来賓の方々にご臨席いただき、式典終了後には、新キャンパスの内覧会も行われました。



●平成29年度カタリナキャンプ(大学)を開催

4月8日(土)、本学(北条キャンパス)にてカタリナキャンプ(大学)を開催しました。本年度は「Beginning～今日から始まるCampus Life～」というスローガンのもと、新しく入学した看護学科の学生も迎え、学科間の交流を通じた仲間づくりや充実した大学生活への導入を目的に、上級生の学生スタッフが企画した様々なプログラムに取り組みました。



●平成29年度カタリナキャンプ(短大)を開催

4月15日(土)、本学にてカタリナキャンプ(短大)を開催しました。

カタリナキャンプは、新入生が、保育学科での学生生活や学習内容について理解を深め、1、2年生や教員との親睦を深めることを目的に毎年開催されている伝統行事です。

この日のために2年生は、各クラスで企画、練習を重ねて1年間の学習成果を発表する良い機会となると同時に良い仲間づくりができました。

1年生は、2年生の楽しい発表を見たり、レクリエーションに参加することで、心と体がほぐれ、スムーズに学生生活をスタートさせることができました。



●平成29年度後援会奨励表彰

5月17日(水)、母をたたえる日の行事に併せ、後援会奨励金の授与が行われました。この奨励制度は、在学生の学業成績優秀者に後援会から奨励金を授与し、さらなる勉学への励みとしてもらうものです。今年度の表彰者は以下の皆さんです。

宮元 志帆さん(大学2年)	曾我部友裕さん(大学2年)	洲之内那衣さん(大学2年)
村上 史織さん(大学3年)	玉井 静香さん(大学3年)	藤原 優歩さん(大学3年)
井上 侑さん(短大2年)	白石 七彩さん(短大2年)	

◆◆ 平成 28 年度後期行事 (H28.10.1 ~ H29.3.31) ◆◆

月	日	曜	区	行 事
10	2	日	大	A O 入試面接、外国人留学生入試(指定校)
			大	編入学試験(一般 I ・提携 I ・指定校推薦)
			短	A O 入試面接、外国人留学生入試(指定校)、入試・募集委員会
	3	月	大	入試・募集委員会
	5	水	大	教授会
			短	教授会、保育学科会議
	6	木		パイプオルガン演奏会実行委員会
	7	金		課長会議
			短	人事委員会、教授会
	11	火		図書館委員会、ボランティアセンター運営委員会
	12	水		理事長講話、キリスト教研究所フォーラム
	13	木	大	第三者評価委員会
	14	金		学生生活委員会
			大	寄付講座⑧「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ、学生生活委員会
	18	火		教学マネジメント会議
			大	人事委員会
	19	水		パイプオルガン演奏会実行委員会
			大	就職委員会
	21	金		理事会
	22	土		教育実習報告会
	26	水		パイプオルガン演奏会実行委員会
	27	木	大	教職課程委員会
			短	大学評価委員会
	28	金		大学祭(～10/30)、大学訪問(上浮穴高校)、教務委員会
			大	教務委員会
	31	月		サルーテ運営委員会
11	3	木	大	推薦入試
	4	金	大	寄付講座⑨「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ、社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議
			短	教授会、人事教授会
	6	日	大	推薦入試
			短	推薦入試、入試・募集委員会
	7	月	大	入試・募集委員会
			短	保育実習[保1](～11/18)
	8	火		F D 委員会、S D 委員会、会計監査
			大	教授会、大学評価委員会
			短	教授会
	9	水		キリスト教研究所フォーラム、大学訪問(北条高校)
	11	金		将来計画委員会、広報委員会
			大	教授会、教職課程委員会
	15	火		学長候補者推薦会議、パイプオルガン演奏会実行委員会
	16	水		課長会議
	18	金		人間文化研究所フォーラム
			大	寄付講座⑩「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ
			短	保育学科会議
	20	日		風早にぎわいまつり
	22	火		S D 委員会
	25	金		中長期経営計画委員会、学生生活委員会
			大	寄付講座⑪「風早の塾」、遠隔地支援制度部会
	26	土		評議員会・理事会
	28	月		I R 推進委員会
	29	火		奨学制度運営委員会
	30	水		保健講話、S D 委員会

月	日	曜	区	行 事
12	1	木		募集部会
	2	金	大	健康スポーツ学科会議、人間社会学科会議
			短	教授会、人事委員会
	3	土	大	推薦入試(一般)、社会人入試
			短	推薦入試(一般)、社会人入試、入試・募集委員会
	5	月		入試制度部会、S D 委員会
			大	入試・募集委員会
	6	火	大	教授会、人事委員会、教務委員会
			短	教授会
	7	水		キリスト教研究所フォーラム
			短	人事委員会
	9	金	大	教授会、選考教授会、寄付講座⑫「風早の塾」
	10	土		オープンキャンパス
	13	火		学長候補者推薦会議、学生生活委員会、学生相談室運営会議
	14	水		入試・募集委員会
	15	木		教職課程連絡会議
	16	金		理事会
			大	社会福祉学科会議、社会福祉実習委員会、寄付講座⑬「風早の塾」
			短	保育学科会議
	19	月		S D 委員会
	20	火		学内クリスマス
			大	学部長選挙、精神保健福祉援助実習報告会・連絡会
			短	保育学科長選挙
	21	水		冬季休業開始、課長会議、財務委員会
			大	人事委員会
	27	火		事務職員研修
1	7	土		冬季休業終了
	10	火		人事委員会
	11	水		就職委員会
	13	金	大	健康スポーツ学科会議、寄付講座⑭「風早の塾」
			短	教授会
	16	月		教務委員会、S D 委員会
			短	幼稚園教育実習[保1](～1/27)
	18	水		キリスト教研究所フォーラム
			短	人事委員会
	20	金		人間文化研究所フォーラム
			大	教授会、選考教授会
			短	保育学科会議
	21	土	大	人事委員会
	25	水		将来計画委員会
	27	金		寄付講座⑮「風早の塾」
	28	土		評議員会・理事会
	31	火		教学マネジメント会議
2	1	水		F D 委員会、課長会議
	3	金	大	健康スポーツ学科会議、後学期試験(～2/9)
			短	教授会
	5	日	大	一般入試
			短	一般入試、社会人入試、外国人留学生入試
	6	月	短	人事教授会、入試・募集委員会
	8	水		入試・募集委員会
			大	入試・募集委員会
	9	木	短	後学期授業終了

月	日	曜	区	行 事
2	10	金	大	教授会、人事委員会、大学評価委員会
			短	教授会、人事教授会
13	月	大		介護福祉実習〔介2〕（～3/10）、人間社会学科卒業研究論文報告会
14	火			学長との懇談会
		大		選考教授会
15	水			キリスト教研究所フォーラム、学生生活委員会
		大		介護福祉実習〔介3〕（～3/14）、学生生活委員会
16	木			保育学科実習懇談会（中予）
17	金			人間文化研究所フォーラム
		大		教授会、入試・募集委員会
20	月	大		精神保健福祉援助実習〔社3〕（～3/9）
		短		保育実習〔保1〕（～3/2）
21	火			理事会、奨学制度運営委員会、教務委員会
		大		教務委員会大学部会
22	水	大		社会福祉学科会議
		短		保育学科会議、教務委員会短期大学部会
23	木	大		一般入試、教授会、入試・募集委員会、選考教授会、人間社会学科会議
24	金	大		人事委員会
		短		教授会、入試・募集委員会
25	土			後援会役員会
28	火			課長会議

月	日	曜	区	行 事
3	2	木		財務委員会
	3	金		人間文化研究所フォーラム
		大		健康スポーツ学科会議、遠隔地支援制度部会
		短		教授会
6	月	短		保育実習〔保1〕（～3/16）
8	水			I R推進委員会
		短		入試・募集委員会
10	金			第三者評価委員会、奨学制度運営委員会
		大		教授会
		短		保育学科会議
14	火			入試・募集委員会
		大		教授会、入試・募集委員会
15	水			卒業式
18	土			春のオープンキャンパス
21	火			春季休業（～3/31）、教務委員会
		大		教務委員会大学部会
23	木			課長会議
24	金			学内合同企業説明会
25	土			評議員会・理事会
27	月			大学訪問（今治精華高校）
28	火	短		保育学科会議

◆◇ 平成 28 年度卒業生就職等進路状況 ◇◇

平成29年5月1日現在

1. 業種別状況

【聖カタリナ大学】

業 種 / 学 科		就 職 者 数			
		社会福祉	健康福祉	人間社会	合 計
企 業	建設／製造	2	3	6	11
	情報通信／運輸、郵便	0	2	4	6
	卸売、小売	6	8	14	28
	金融、保険	1	1	1	3
	サービス（宿泊、複合他）	5	6	4	15
	その他（電気、不動産他）	2	3	2	7
	教育、学習支援	1	2	0	3
医療、福祉	医療、保健衛生（病院他）	2	0	0	2
	児童福祉施設	1	0	0	1
	老人福祉施設	15	2	1	18
	障害者福祉施設	10	1	2	13
	その他（社会福祉協議会他）	2	1	0	3
公 務	国家公務員	0	1	0	1
	地方公務員	1	0	1	2

就 職 者 数		48	30	35	113
	（ 県 内 ）	(42)	(20)	(32)	(94)
	（ 県 外 ）	(6)	(10)	(3)	(19)
卒業生内訳	就職未定者数	0	2	1	3
	就職希望者数	48	32	36	116
	就職率	100.0%	93.8%	97.2%	97.4%
	進学決定者	1	1	1	3
	家事・その他	2	2	6	10
	卒業生数	51	35	43	129

【聖カタリナ大学短期大学部】

業 種 / 学 科		就職者数
		保 育
教 育 , 学 習 支 援	公立幼稚園	1
	私立幼稚園	25
	認定こども園	18
	その他の教育、学習支援業	1
児 童 福 祉	公立保育所	5
	私立保育所・託児所	34
	児童養護施設	2
	その他の児童福祉事業	2
医療、福祉	病院	0
	その他の福祉、介護事業	5
企 業	卸売、小売	1
	宿泊、飲食サービス	0
	金融、保険	0
	その他（製造、サービス他）	1
公 務	国家公務員	0
	地方公務員	0

就 職 者 数		95
	（ 県 内 ）	(83)
	（ 県 外 ）	(12)
卒業生内訳	就職未定者数	0
	就職希望者数	95
	就職率	100.0%
	進学決定者	6
	家事・その他	5
	卒業生数	106

（6Pへ続く）

2. 職種別状況

【聖カタリナ大学】

職 種 / 学 科	就 職 者 数			
	社会福祉	健康福祉	人間社会	合 計
医療ソーシャルワーカー(MSW)	1	0	0	1
精神科ソーシャルワーカー(PSW)	2	0	0	2
相談員(社会福祉主事他)	0	0	0	0
支援員(知的・身障・児童他)	12	1	2	15
介護福祉士、介護職	13	2	1	16
その他の福祉専門職(社会福祉士他)	2	1	0	3
教員(高等学校のみ)	0	0	0	0
事務	5	6	9	20
販売、営業	8	11	15	34
その他(サービス、保安、生産他)	5	9	8	22
合 計	48	30	35	113

【聖カタリナ大学短期大学部】

職 種 / 学 科	就職者数
	保 育
幼稚園教諭	44
保育士	42
その他の教員	0
社会福祉専門職業／介護サービス職業	5
事務	1
販売	1
その他(サービス職業／生産工程他)	2
合 計	95

◆◆ 平成 28 年度教授会議題（後期）◆◆

【聖カタリナ大学教授会議題】

H28. 10. 5 第8回

1. 平成29年度AO入試合格者選考について
2. 平成29年度外国人留学生特別入試指定校推薦合格者選考について
3. 平成29年度第3年次編入学国際提携校推薦入試合格者選考について
4. 平成29年度第3年次編入学提携校推薦入試I期合格者選考について
5. 平成29年度第3年次編入学一般入試I期合格者選考について

H28. 11. 8 第9回

1. 平成29年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成29年度専願特別推薦入試合格者選考について
3. 平成29年度スポーツ特別推薦入試(I期)合格者選考について
4. 平成29年度公募制推薦入試(看護)合格者選考について

H28. 11. 11 第10回

1. 平成29年度学年暦について
2. 聖カタリナ大学教授会規程の一部改正について
3. 退学について
4. 履修科目の登録の特別許可について
5. 学部長候補者選考に係る選挙管理委員の選出について

H28. 12. 6 第11回

1. 平成29年度特別推薦入試(スポーツⅡ期)合格者選考について
2. 平成29年度一般推薦入試合格者選考について

H28. 12. 9 第12回

1. 学長賞受賞者の選考について
2. 聖カタリナ大学学則別表の一部改正について
3. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科研究倫理審査規程の制定について
4. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科研究倫理委員会運営規程の制定について
5. 聖カタリナ大学大学評価委員会規程の一部改正について
6. 授業科目の開設について

H29. 1. 20 第13回

1. 聖カタリナ大学学則の一部改正について
2. AO入試での入学予定者の入学資格について
3. 聖カタリナ大学進級規程の制定について
4. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部履修規程の一部改正について
5. 聖カタリナ大学試験に関する規程の一部改正について
6. 聖カタリナ大学GPAに関する規程の制定について
7. 退学について

H29. 2. 10 第14回

1. 平成29年度一般入試(A日程)合格者選考について
2. 平成29年度試験入試合格者選考について
3. 聖カタリナ大学FD委員会規程の一部改正について
4. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部障がい学生支援規程の制定について

H29. 2. 17 第15回

1. 平成29年度大学入試センター試験利用入試(前期)合格者選考について
2. 平成29年度センタープラス入試(A日程)合格者選考について
3. 平成29年度第3年次編入学提携校推薦入試(Ⅱ期)合格者選考について
4. 平成29年度第3年次編入学一般入試(Ⅱ期)合格者選考について

H29. 2. 23 第16回

1. 平成29年度一般入試B日程合格者選考について
2. 卒業判定について

H29. 3. 10 第17回

1. 卒業の認定について

2. 進級判定について

3. 転学科について

4. 休学について

5. 除籍について

6. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学実習委員会規程の制定について

H29. 3. 14 第18回

1. 平成29年度一般入試(C日程)合格者選考について
2. 平成29年度センタープラス入試(B日程)合格者選考について
3. 平成29年度センター試験利用入試(後期)合格者選考について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

H28. 10. 5 第6回

1. 平成29年度AO入試合格者選考について

H28. 10. 7 第7回

1. 前期末卒業生について
2. 退学について
3. 除籍について
4. 科目等履修生の受入れについて
5. 学長候補者推薦会議構成員の選出について

H28. 11. 4 第8回

1. 平成29年度学年暦について
2. 聖カタリナ大学短期大学部教授会規程の一部改正について
3. 退学について

H28. 11. 8 第9回

1. 平成29年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成29年度専願特別推薦入試合格者選考について
3. 平成29年度スポーツ特別推薦入試合格者選考について

H28. 12. 2 第10回

1. 学長賞受賞者の選考について
2. 聖カタリナ大学短期大学部大学評価委員会規程の一部改正について
3. 学科長候補者選挙管理委員会委員の選出について

H28. 12. 6 第11回

1. 平成29年度一般推薦入試合格者選考について
2. 平成29年度社会人特別入試(I期)合格者選考について

H29. 1. 13 第12回

※報告・連絡事項のみ

H29. 2. 3 第13回

1. 聖カタリナ大学短期大学部学則の一部改正について
2. 聖カタリナ大学短期大学部試験に関する規程の一部改正について
3. 聖カタリナ大学短期大学部GPAに関する規程の制定について
4. 聖カタリナ大学短期大学部FD委員会規程の一部改正について
5. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部障がい学生支援規程の制定について

H29. 2. 10 第14回

1. 平成29年度一般入試(A日程)合格者選考について
2. 平成29年度大学入試センター試験利用入試(前期)合格者選考について

H29. 2. 24 第15回

1. 平成29年度一般入試B日程合格者選考について
2. 卒業判定について

H29. 3. 3 第16回

1. 卒業の認定について
2. 除籍について

◆◆ 平成 28 年度学校法人聖カトリナ学園決算概要 ◆◆

■ 1. 資金収支決算

資金収支決算は、資金収入が56億97百万円（予算比+74百万円）、資金支出が58億43百万円（予算比△2億42百万円）となりました。結果、差額△1億46百万円を前年度繰越支払資金24億38百万円に加算し、次年度繰越支払資金は22億92百万円となりました。

■資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度の支払資金（現金&いつでも引き出すことのできる預貯金）の収入及び支出の順を表します。

■ 2. 事業活動収支決算

事業活動収支決算は、事業活動収入が39億44百万円（予算比+69百万円）、事業活動支出が39億円（予算比+18百万円）となりました。同差額より基本金を組み入れた結果、当年度収支差額は△8億38百万円（予算比+1億84百万円）となり、基本金取崩額45百万円を加え、翌年度繰越収支差額は△46億44百万円（予算比+2億29百万円）となりました。

■事業活動収支計算書：当該会計年度の事業活動収入（学校の負債とされない収入）及び事業活動支出（現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む）の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。一般企業会計の「損益計算書」に当たります（右表は総括様式）。

■ 3. 貸借対照表

貸借対照表は、本年度末（平成29年3月31日）において、資産の部は159億11百万円、負債の部は25億92百万円、純資産の部（正味財産）は133億19百万円（基本金179億63百万円と繰越収支差額△46億44百万円の合計）となりました。

■貸借対照表：一定時点（本学は3月末現在）の資産、負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

* 学校法人会計基準について *

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通じた人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過大な設備投資や場当たり的な運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和46年に文部省令第18号として制定された「学校法人会計基準」です。国または地方公共団体から補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法第14条に基づき、「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」とされています。なお、学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成25年4月22日文部科学省令第15号）が平成27年4月1日に施行され、平成27年度以降の予算・決算に適用されています。*****

（注）表中数字の単位は、「百万円」です。
百万円未満は四捨五入して記載しています。

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
前年度繰越支払資金	2,438	2,438	—
当年度			
資金収入	5,624	5,697	74
資金支出	6,085	5,843	△242
収支差額	△462	△146	316
翌年度繰越支払資金	1,976	2,292	316

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
事業活動収入計 ①	3,875	3,944	69
事業活動支出計 ②	3,882	3,900	18
基本金組入前当年度収支差額 (①-②)	△7	44	51
基本金組入額合計	△1,014	△881	133
当年度収支差額	△1,022	△838	184
前年度繰越収支差額	△3,851	△3,851	—
基本金取崩額	0	45	45
翌年度繰越収支差額	△4,873	△4,644	229

科 目	本年度末 (a)	前年度末 (b)	増 減 (a)-(b)
資産の部			
固定資産	13,302	12,215	1,087
流動資産	2,609	2,811	△202
資産の部合計	15,911	15,027	885
負債の部			
固定負債	1,814	1,110	705
流動負債	778	642	136
負債の部合計	2,592	1,751	841
純資産の部			
基本金	17,963	17,127	836
繰越収支差額	△4,644	△3,851	△793
純資産の部合計	13,319	13,276	44
負債及び純資産の部合計	15,911	15,027	885

◆◆ 人 事 ◆◆

《平成29年2月1日付け》

【新規採用】

就職課

課長補佐 鈴木 勝

法人本部事務局

坂口 綾

《平成29年3月31日付け》

【退職】

人間健康福祉学部

教授 玉井 建三

教授 鷹尾 雅裕

教授 山本 克司

教授 徳田 剛

教授 丸山 裕司

講師 武村 淳司

保育学科

教授 松井 寿美子

助教 尾海 あかり

教務課

課長 矢野 修一

就職課

課長 井上 尚幸

総務課

技術職員(非)

保育学科カリナナ

育て支援ひろば担当 萩山 朋子

《平成29年4月1日付け》

【新規採用】

人間健康福祉学部

教授 谷 隆一郎

教授 石本 傳江

教授 軸丸 清子

教授 小路 ますみ

教授 北川 かほる

教授 室津 史子

教授 中尾 美幸

講師

講師

講師

講師

講師

講師

助教

助教

助教

助教

助教

助教

助教

入試課

事務職員

事務職員

事務職員

事務職員

永易 裕子

白柿 綾

大久保 元正

増田 裕美

中村 五月

小西 円

喜多村 定子

長尾 雅美

阿部 祥子

小木曾 真司

瀧本 千紗

石崎 孝太郎

牛島 光太郎

谷口 聖

渡部 聖菜

学生支援課

事務職員

総務課

技術職員(非)

保育学科カリナナ

育て支援ひろば担当 大濱 美鈴

技術職員(非)

保育学科カリナナ

育て支援ひろば担当 長野 彩未

法人本部事務局

清光 由良

[松山市駅キャンパス]

看護学科事務局

事務職員(非) 沖原 昌美

事務職員(非) 善家 美奈子

用務員(非) 佐々木 尚子

附属図書館分館(非) 山本 浩史

附属図書館分館(非) 牧尾 裕

(8Pへ続く)

附属図書館分館(非) 橘 薫里
【昇任】
 人間健康福祉学部
 准教授 釜野 鉄平
 准教授 大黒屋 貴稔
 就職課
 課長 鈴木 勝
 教務課
 課長 渡部 真由美

就職課
 主任 蔵前 純二
 教務課
 主任 山内 宏之
 法人本部事務局
 局長補佐 河本 佳香
 (併任:会計課長)
 庶務課長 高橋 小巻

【配置換】
 教務課
 係長 宮崎 和典
【配置換・昇任】
 [松山市駅キャンパス]
 看護学科事務部局
 事務部局長 三宅 来
 課長補佐 山本 直樹
 係長 正岡 祐子

《平成29年5月1日付け》
【新規採用】
 教務課
 事務職員(非) 矢野 早耶花
 《平成29年5月31日付け》
【退職】
 会計課
 主任 山内 理恵子

◆◇ 研究室探訪 ◇◇

聖カタリナ大学 看護学科(老年・在宅看護学) 教授 西田 佳世

『創めることは創ること』

2017年4月、松山市の中心部に新キャンパスが完成し、本学第4番目の学科である看護学科が産声をあげました。そして、希望にあふれる看護学科第1期生が、できたてホヤホヤの松山市駅キャンパスで『夢をカタリナ』の第一歩を力強く踏み出しました。聖カタリナ大学は、今年30周年を迎えました。私たちは、これまでに既存学科が培ってきた伝統を引き継ぎながら、看護学科の誕生により、新たな知と技を加え、学生と教職員、そして地域の方々とともに、次のステージにある聖カタリナ大学ブランドの魅力に一層磨きをかけていきたいと思っています。

私の専門領域である老年看護学は、「自分らしく生き生きと人生を過ごしたい」その願いを生活、および看護の側面から、様々な手法を用いて支えることに特徴があります。そして、もう一つの特徴としては、私たち自身が、まだ経験していない老年期の方々への看護に取り組むということです。その年代にならないとわからないことはたくさんあります。ですから、とにかく、現場に入って、当事者の顔を見て、話して、触れて、教えていただくことを基本に研究・教育に取り組んでいます。「人と人」のいい関係が築かれなければ、いい看護はできない、そのような看護の原点を感じることができる領域であることが、老年看護学の魅力であると思っています。私たちが提供する看護の力量(質)は、提供する側・される側の両者を大きく変える魔法の鍵です。そして、その鍵を握る適任者は、医療職の中でも、一人ひとりの生活をしっかりと見て、護り、コーディネートすることを守備範囲としている私たち看護専門職であると確信しています。その鍵をどのような場面で、どのように使うことが効果的なのか、つまり、その人らしい生活を支えることに繋がるのかを考えるために、現場に入って実践し、現場に繋ぐ、それが私の研究のスタイルです。

現在、私が取り組んでいる研究テーマは、糖尿病をもつ人の療養支援、高齢者の転倒予防とフットケア、認知症がある方の生きる力を支える看護方法(特に、移動や生活リズム)、認知症高齢者を在宅で介護する家族への支援方法、高齢者を看取る看護師・介護士への支援方法などです。最近、取り組んだ研究では、高齢者施設で生活している認知症の方にご協力いただき、毎日、一定時間、日光浴と同様の光を室内で浴びることで活動と睡眠のリズムの崩れを整える介入を行いました。結果として、このような介入が睡眠リズムを整えることに効果があることが明らかになりました。そこで、現在は、通常のケアにどのように取り入れることができれば、ケ



アスタッフへの負担を増やすことなく、多くの人々に活用できるかをケアスタッフとともに検討を進めています。また、高齢者施設に入所されている高齢者の方々の足趾・爪の変形や白癬の現状調査にもご協力いただきました。そして、特に、自らの意思がうまく表現しづらい認知症の方々の靴を履いている状態での足趾間湿度を測定し、一般的に行われているケア方法では効果が発揮できないことを明らかにすることができました。現在、ケアスタッフと改善方法を検討し、これらの研究成果を現場に繋ぐ方法を構築しています。私とともに老年看護学を担当する2人の講師も、高齢者の排泄ケア、高齢者の睡眠や生活リズムの調整へのケアに関する研究を行っており、私たち老年看護学領域は、高齢者の生きる力を支援するために不可欠なテーマに全力で取り組み、聖カタリナブランドの看護を松山市駅キャンパスから発信していきたいと思っています。

私たちの研究は、地域の方々や臨床のスタッフとの対話や協力をなくして、実現するものではありません。これからもより一層、地域の方々と絆を強固なものとし、地域に貢献できる研究を展開していきたいと思っています。そして、学生と教職員が心を通わせ、「愛と真理」を探究すべく、新たな聖カタリナ大学の歴史を創め、創っていききたいと思います。



聖カタリナ大学・短期大学部学報
 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
 TEL 089-993-0702(代)
<http://www.catherine.ac.jp>
 編集・発行
 広報委員会
kouhou@catherine.ac.jp